

創立記念日について 1912年4月20日～2018年4月20日



石岡第二高等学校は、1912年（明治45年）4月20日に、新治郡石岡町立石岡実科高等女学校として、第1回の入学生を迎えました。

それ以来、この日を創立記念日として年月を重ね、今年で106回を数えることとなりました。

左の写真は第1回の入学生ですが、この先輩方から始まり、本校は今年の3月で2万名あまりの卒業生を世に送り出してきました。

この長い歴史を引き継ぎ、次の時代を創っていくのは在校生のみなさんです。これを機会に、母校の歴史を振り返ってみましょう。

■ 創立の頃 ■

右は創立当初の校舎ですが、この校舎は、現在の石岡市民会館付近に建てられていました。



1912年（明治45年）は、近代日本の始まりでもあった明治時代が終わった年でもあります。

7月30日に明治天皇のご逝去が公表され、時代は大正へと変わります。



映画でも有名になった「タイタニック号」が沈没事故を起こしたのも、この年の4月14日でした。



■ 町立から県立へ / 実科高等女学校から高等女学校へ ■



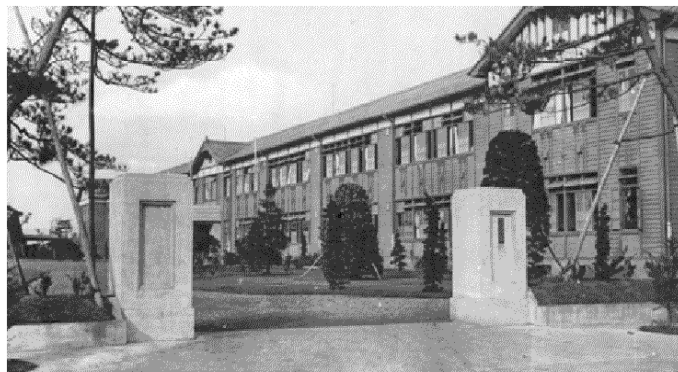
時代は少し飛んで、昭和12年には現在の地に新しく立派な校舎が建てられ、石岡町立実科高等女学校から茨城県立高等女学校へと変わっていく準備が整いました。

左の写真は、古い校舎を前にした最後の集会の様子です。セーラー型の制服は昭和7年から採用されていました。

右は、昭和13年4月27日、県立の高等女学校となったことを祝い、町の通りに建てられた記念塔と提灯の並びを写したものです。町全体で祝う様子がうかがえます。



現在と同じ場所に建つ旧校舎。格調高い木造建築の校舎でした。



左右は、当時の授業風景。
左は、女学校らしい、割烹（調理）や裁縫の授業、右は数学と修身の授業の様子です。



創立記念日について 1912年4月20日～2018年4月20日

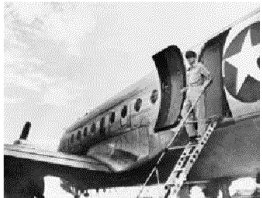
■戦争の時代■



太平洋戦争が始まると、女学校も時代の波にのまれ、セーラー服の下はもんぺとなり、授業もおろそかになって、生徒達も様々な奉仕作業に駆り出されるようになりました。



■平和の時代■



戦争が終わり、次第に落ち着いた生活が取り戻されてきた頃、昭和天皇の行幸がありました。当時、全国を巡幸されていた陛下が石岡にもおいでになったのです。



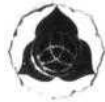
この頃、本校は徒手体操で全国大会に参加していて、校舎も他校に比べると新しく立派であったため、視察地のひとつに選ばれたということです。この日は全校生徒で「女学校体操」を披露しました。

この行幸を記念して、これ以降、本校の校章に「菊の紋章」が入るようになったのです。

(校章の変遷)



昭和7年



昭和12年



昭和21年

■生徒の活躍■



戦後、まず最初に卓球部が活躍し、全国大会まで進むと、陸上部、庭球部も第2回国民体育大会（金沢大会）に参加するという素晴らしい成績を残しました。

左の写真は、第3回国民体育大会に参加した体操のチームで、この後、体操は石岡二高を代表する部活動の一つとなり17年連続して全国大会に参加するという偉業を成し遂げました。



その他、文化部の活躍もあり、JRCでは、毎年、夏場になると、石岡駅のホームで乗客に冷水を配るといった活動も行い、乗客の皆さんにも喜ばれました。



■校舎建て替え■



趣のあった木造校舎も40年近い年月の中で老朽化してきたため、建て替えられることになりました。昭和51年3月から、ほぼ1年をかけて新校舎が完成しました。



■男女共学■

話は一気に平成の時代に飛びます。戦後の一時期に男子生徒が在学したことを除けば、長い間女子校として知られていた本校も男女共学の学校となって、平成8年には男子生徒51名が入学しました。

男子は制服として黒の詰め襟を着用していましたが、平成10年度入学生から現在の黒のスーツ型制服に変わりました。昭和7年から60年以上もの間親しまれてきた女子のセーラー服も見られなくなりました。



(制服の変遷)

大正12年の和服と洋服の標準服



(セーラー服)

昭和7年に制定され、平成9年まで石岡二高を象徴する制服でした



(現在の制服)

■そして106年■

そして、次の100年への歩みを進めて行くのは在校生のみなさんです。